


様式第1号

令和元年10月29日

真庭市議会
議長 古南 源二 殿

会派「未来」代表
真庭市議会議員 柿本 健治 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- 1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動
- 2 訪 問 先 高知市布師田3992-2
 高知ちばさんセンター

- 3 内 容 令和元年度第14回全国議長会研究フォーラム参加

- 4 行 程 別紙のとおり
- 5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要
- 6 参 加 者 中元唯資、山本久恵、柿本健治

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



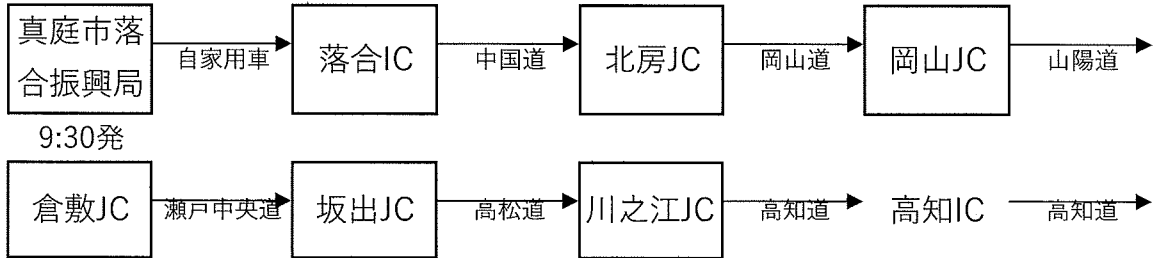
令和元年度全国議長会研究フォーラムスケジュール

開催日時 令和元年10月30日～31日

開催場所 高知ちばさんセンター
高知市布師田3992-2

参加議員 会派「未来」柿本健治、中元唯資、山本久恵

行程 第1日(10/30)



高知ちばさんセンター

宿舎：高知共済会館
高知市本町5-3-20

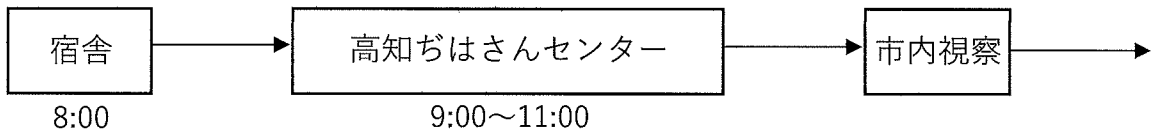
第1部 基調講演 「これからの経済・社会の変容と地方政治家の態度」

第2部 パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

第2日(10/31)

第4部 課題討議 「議会活性化のための船中八策」



真庭市落合振興局

交通手段：自家用車利用(柿本車利用)

議長

副議長

局長

GL

係

図 覧



様式第 2 号

報 告 書

令和 元 年 11 月 5 日

真庭市議会議長 古 南 源 二 殿

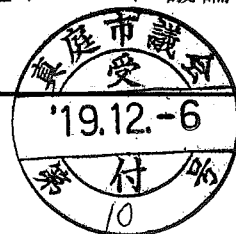
報告者 会派「未来」代表

真庭市議会議員 氏名 柿 本 健 治



下記のとおり政務活動費を使用して、会派「未来」の研修会活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 令和元年10月30日(午前・ 午後) 13時00分 至 令和元年10月31日(午前・ 午後) 12時00分
2 場 所	高知市父布師田3992-2 高知ぢばさんセンター
3 用 件	第14回全国市議会議長会研究フォーラム
4 概 要	令和元年度第14回全国市議会議長会研究フォーラムin高知が、議会活性化のための船中八策をテーマに開催され会派「未来」として研修のため参加した。 研究フォーラムは、開会式で主催者を代表して挨拶に立った全国市議会議長会会長「大分市議会 野尻哲雄」議長は、挨拶の中で議会の役割と責任が高まるなか、議会は多様化する民意の市政への反映と集約が期待されるが、議員の年齢構成、男女割合、職業分布など議会構成などに疑問を呈する指摘もあるなか不断の議会改革に取り組む事が緊要な課題として、今回のフォーラムでは、坂本竜馬の船中八策にならい「議会活性化のための船中八策」をテーマに議論して頂き有意義なフォーラムにして頂きたいと挨拶。



報告書 (継紙)

基調講演では、「現代政治のマトリクスー リベラル保守という可能性」と題して、中島岳志東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授からの講演を受講した。

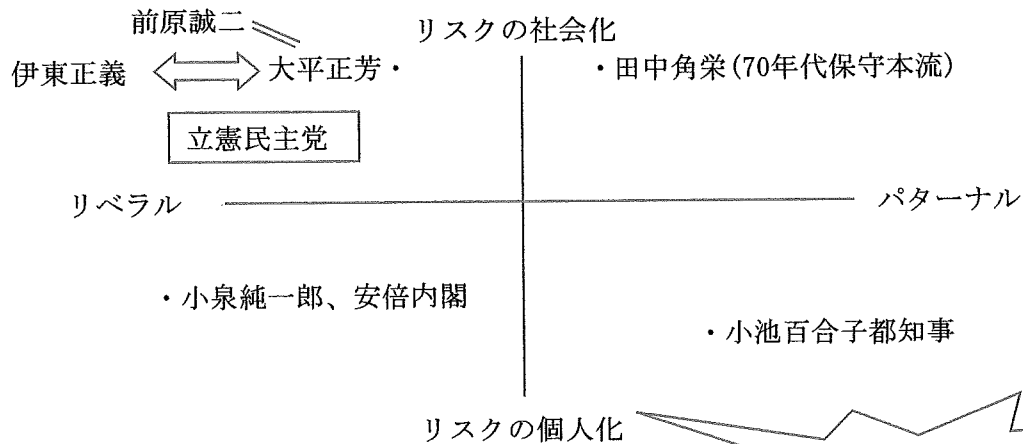
1. 政治のマトリクスについて座標軸による解説を受けた。

① 配分をめぐる軸……縦軸

→セーフティーネット強化(リスクの社会化)vs自己責任(リスクの個人化)

② 価値をめぐる軸……横軸

→リベラルvsパターナル



❖ 自民党の50年

❖ 希望の党はなぜ失敗したのか

座標軸対局による合同が困難と考えられる。

2. ラディカルデモクラシーとポピュリズム

❖ 物語の設定の重要性

① 2017年10月の立憲民主党フィーバー

・「枝野立て」→「立憲民主党はあなたです」政治の主役の明確化

→2018年8月以降、支持率急落(12%→8%)

② 2019年のれいわ新選組フィーバー

❖ ラディカルデモクラシー

① 熟議デモクラシー：地方政治に入れやすい

② 闘技デモクラシー：対抗軸の明確化

→シャンタル・ムフ『左派ポピュリズムのために』(明石書房、2019年)

3. リベラルの逆説

・「寛容」としてのリベラル

・「消極的自由」と「積極的自由」→自由のバランス

4. 保守とはなにか?

◎革新では、支持は得られない

パネルディスカッション1部では、坪井ゆづる氏(朝日新聞論説委員)をコーディネーターに「議会活性化のための船中八策」をテーマにパネルディスカッションが開催され、パネリストとして高部 正男氏(市町村職員中央研修所学長)、横田 響子氏(株式会社コラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員教授)、古川 康造氏(高松丸亀町商店街振興組合理事長)、田鍋 剛氏(高知市議会議長)の4名がそれぞれの立場での取り組みなどについて発表が行われ意見交換がなされた。

コーディネーターの坪井ゆづる氏は地方議会の現状について、地方分権一括法の施行から20年になる。この間、全国各地で議会改革が叫ばれてきた。

議会基本条例をはじめ幾多の成果を残してきたが、現状ですでに十分だと言えるのか? いま、世論は実に厳しい。「いまだに『自治の主役』の自覚に欠ける議員が存在している」という「議会不信」があり、選挙における投票率の低迷が相次いでおり、議会に向けられた冷ややかな視線の表れと見える。

と指摘され、

★行政監視機能をどうやって高め、成果を上げていくか?

★人口減少、外国人の増加、災害対応など、地域の将来を見据えた政策議論を進めるために必要に視点とは何か?

★候補者男女均等法のもとで、「老老男男」の実態をどう変えられるか?

★規模の小さい議会で深刻化する「なりて不足問題」にどう対処するか?

★住民の関心を高めるために何をすべきか。等を討議したいと発言された。

パネリスト

❖高部 正男氏((市町村職員中央研修所学長)からは、以下の4項目についての発言があった。

1、市議会についての現状認識

- ・市議会改革への取り組みの広がり 基本条例制定60.8%、報告会開催53.7%
- ・指摘される問題点 ①投票率の低下、②無投票当選の増加、③議員構成の偏り、④政務活動費の不正使用等

2、自治体議会をめぐる状況変化

- ・市町村合併の進展 議員数の減少
- ・議会運営の弾力化 議会活動・運営の厳格化

3、議会基本条例

4、今後の自治体議会のあり方

- ・「多様な人材の市議会への参画促進に関する決議」全国議長会第95回総会
- ・中長期的な制度課題
- ・早急に検討すべき事項
 - ① 地方選挙の統一、②兼職・兼業規制の弾力化、③労働法制の見直し、④議員の厚生年金への加入

❖横田 響子横田 響子氏(株式会社コラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員教授)は、以下の2点について発言された。

1、「そもそも議会に必要なこと」として、

- ① 20年後の住民は幸せですか?
- ② やりっぱなしになっていませんか?
- ③ 若手、女性の参加は?巻き込んで街を活性化する策は?

2、議会改革の具体的なアイデア

- ① 中長期視点で街の目指す方向を議論(人口減を前提に!)
- ② ガチンコ会議を多様な人材で実施
- ③ 経験の機会提供

❖ 古川 康造氏(高松丸亀町商店街振興組合理事長)は、バブル崩壊後の街の再開発の取り組みにおける議員の役割についての報告があった。

丸亀町商店街の取り組みとして、議員は地域代表としてうまく機能している。

❖ 田鍋 剛氏(高知市議会議長)からは、高知市議会の現状についての報告があった。

パネルディスカッション2部では、朝日新聞論説委員の「坪井 ゆづる」氏をコーディネーターに、上越市市議会 滝沢 一成 議員、鎌倉市議会 久坂くにえ 議長、周南市議会 小林 雄二 議長をパネラーに各議会での事例報告を受けながら、議会活性化策についての議論が展開され、「議会活性化のための船中八策」の方向性が示された。

❖ 「坪井 ゆづる」氏は、データで見る地方議会の状況を報告された。

【女性議員】今年度の統一自治体選挙の結果を見ると市議会でも「女性ゼロ議会」が存在する。

【なり手不足】一般市議会・特別区でも27%が課題としている。

【報酬】この4年間で、400議会が増額・49議会が減額、議員専業で暮らしていける報酬が重要。

【議会本条例】519議会(63.7%)が制定、17議会(2%)が検討中としており、標準装備化が進んでいる。

【3ない議会】

- ① 首長提案議案をひとつも、否決も修正もしていない。
- ② 議員提案の政策条例をひとつも制定していない。
- ③ 議員個人の賛否を公開していない。

このような「3ない議会」は減少傾向にあるが、74議会(9.1%)現存している。

❖ 滝沢 一成氏(上越市議会議員)は、「議員を目指しやすい環境整備」の取り組みについて報告。1年間かけて「5つの大項目」と「19の小項目」を提言

❖ 久坂 くにえ氏(鎌倉市議会議長)は、女性議員の現状について報告

❖ 小林 雄二(周南市市議会議長)は、平成15年の合併により誕生した周南市議会として、合併特例法に基づき、議員の在任特例を適用し、報酬は一番高い旧徳山市に統一したことに対し、住民から議会解散請求が提出され、住民投票結果を受け、議会解散を決定。議会改革の原点となっている事が法くされた。

「議会活性化のための船中八策」は以下の通り

- 1、監視機能の強化の議論
- 2、次世代を見えた議論
- 3、データを踏まえた議論
- 4、労働法制の見直しの議論
- 5、情報公開の議論
- 6、多様性を許容する議論
- 7、自治法96条の活用
- 8、議員間の徹底議論

★第14回全国フォーラム開催写真

